

## 2024年度第2回 開志専門職大学 事業創造学部 教育課程連携協議会 議事録

1. 日 時：2025年2月25日（火）13：00～15：00
2. 会 場：開志専門職大学 紫竹山キャンパス 7階会議室  
（オンラインでの参加者はTeamsにて参加）
3. 出席者：向正道 委員長、唐木宏一 委員、高野英介 委員、武田修美 委員、田中豊 委員、  
星和樹 教務委員（五十音順）  
事務局：遠田孝之 学務部長、阿部朋子 事業創造学部 学務課課長、今井泰子 学務課職員  
欠席者：なし

### 4. 議 事：

#### 【報告】

- (1) 2024年度 教育課程に関する報告と質疑応答
  - 1) カリキュラム改訂について
  - 2) 事業創造学部 学生募集状況（2024年度2月末時点）
    - ・オープンキャンパス動員状況、入学予定者
    - ・2025Open Gate Niigata 報告
    - ・全国ベンチャー学会報告
  - 3) 事業創造学部 学生状況（2024年度2月末時点）
    - ・在校生状況
    - ・新入生状況
  - 4) 事業創造学部 運営報告（2024年度後期）
  - 5) 臨地実務実習先企業一覧（2024年度）
  - 6) 就職内々定状況報告（2024年度2月末時点）
  - 7) 質疑応答

### 5. 議事結果：

#### 【報告】

- (1) 2024年度 教育課程に関する報告と質疑応答

- 1) カリキュラム改訂について

星教務委員より、資料1について説明された。

（向委員長）事業承継科目は我々の大学として重要な科目と認識している。ただし、大学卒業後すぐに事業承継をする学生は限られてしまうため、キャリアの幅を広げて科目を設置するため、科目名含め、現状の授業内容に合わせた形で変更を行った。

AI・リテラシーについては、情報学部以外の学部においてもリテラシーを獲得するために

学部横断で設定をしている。

(唐木委員) AI・データリテラシーの科目は、情報学部で開講をするのか、オンラインでの開講をするのか。

→ (星教務委員) オンラインでの開講を予定している。

## 2) 事業創造学部 学生募集状況 (2024年度2月末時点)

- ・オープンキャンパス動員状況、入学予定者

向委員長より、資料3について説明された。

- ・2025Open Gate Niigata 報告

向委員長より、資料4について説明された。

- ・全国ベンチャー学会報告

向委員長より、資料5について説明された。

(遠田学務部長) 補足として、本年度より3年次編入制度を開始した。今年度はNSGグループ内の専門学校への周知・指定校枠の設置をした。2025Open Gate Niigataに参加をした、新潟ビジネス専門学校の学生が1名、編入をすることとなった。2025Open Gate Niigata で本学へ興味を持ってつながった縁ということもあり、入試広報課からもこのようなコンテストに出場・受賞歴のある方を対象とした特待生制度を検討している。(3年次1年間の学費免除) 今後も活用して進めていきたい。

(向委員長) 様々な活動を通して大学の認知度を高めることによって、学生の質も変わってきていると感じる。商品開発やビジネスに興味を持って入学をしてきている。単に定員充足を目指すということだけでなく、採りたい学生が来てくれることにも繋がっていると感じている。

(田中委員) 日刊工業新聞の<キャンパスベンチャーグランプリ>の審査員を務めている。そこへ今年度は開志専門職大学の学生が出場し、奨励賞を獲得している。名立たる大学からの出場者がいるレベルの高い中で受賞をしたことはとてもすごいこと。これを大学の情報として発信していくと、大学の価値も上がるのではないかと思う。引き続き次年度以降も出場していくべきと考える。

(向委員長) 本件については、学長へも報告し、HP等へも掲載を行った。「開志らしい学生」を生み出すため、このような活動を外部へ発信し、このような活動が求めている大学なんだという認知をさせていきたいと思う。

学内の学生へも引き続き紹介をして取り組んでいきたいと思う。

(遠田学務部長) これまでの創業支援センターを起業家教育研究センターへ改名をし、より起業活動の機会を活発に学生へ与えて行こうと活動をしている。そのひとつとしてOpen Gate Niigataを開催している。さらに、現在「UPDATE EARTH」(デロイトトーマツベンチャーサポート株式会社)へも2組エントリーをしている。本学実施のビジネスアイデアコンテストからより高みを目指していくことが目的。企業からもお声がけを頂いていることもあり、どう連携をして取り組みを進めていくかを検討している。うまく循環させていくことで、より多くの起業家を輩出し、大学の評価へとつなげていくことができると考えている。

### 3) 事業創造学部 学生状況 (2024 年度 2 月末時点)

#### ・在校生状況

阿部学務課長より、資料 6 について説明された

(向委員長) 就職関係については、今年度は残念ながら起業した学生はいなかった。一方で、民間就職は昨年度より早い段階で全員決定した。

退学・休学については前年度に比べ改善はされた。基礎ゼミなどを設置し、前期の出席状況は改善されたが一部の学生は後期になってから崩れる様子もみられた。

#### ・新入生状況

阿部学務課長より、資料 7 について説明された。

(向委員長) スクーリングは昨年度より実施しているもの。入学前に友達ができると、入学後もスムーズに学生生活ができる様子が現 1 年生を見ていると感じる。

### 4) 事業創造学部 運営報告 (2024 年度後期)

阿部学務課長より、資料 8 について説明された

### 5) 臨地実務実習先企業一覧 (2024 年度)

向委員長より、資料 9 について説明された。

100 社を超える企業の方にご協力頂いて進めてきた。今年度については、前年度までと比べて少なく見えるが、新カリキュラム移行に伴い、これまで 2 年生・3 年生の実習がそれぞれ前期後期で 2 科目だったものを後期 1 科目へ統合したため、全体的に企業数は減っている。

長期化することによって、これまでの時間数ではできなかったことができるようになっている。今年度実際に行った例としてファッションショー、佐渡金山が世界遺産登録になったことに伴っての観光商材販売などがある。

また、今までの時間数では企業に行きっぱなしで実習が終わってしまっていたが、教員が伴走・フォローをする曜日を設けることによって成果は上がっていると感じる。実習 I～III のそれぞれでキャリアセンターとの連動を行い、その中でアンケートを実施した。

### 6) 就職内々定状況報告 (2024 年度 2 月末時点)

向委員長より、資料 10 について説明された。

### 7) 質疑応答

・唐木委員: 就職が相変わらず好調であると印象を受けた。臨地実務実習で成果を上げているということも資料から読み取ることができた。

実習後のアンケートでは、実習で得て欲しい気付きについて回答している学生が多いという印象を受け、これも実習の成果であると感じる。

Open Gate Niigata の説明の中で「開志らしい学生」という言葉があったが、このよう

なビジネスアイデアコンテストを行っていく中で、在校生にとってもこれから入学を希望する学生にとってもそのようなシンボリックな学生が出てきているということが好循環につながっていると思う。

Open Gate Niigata の高校生部門はどのように募集をしているのか。

→ (向委員長) HP 等でも告知をしているが、まだ十分に認知されていないので、起業家教育研究センターの教員がターゲット高校を絞って、直接出向いてアプローチ・告知をおこなうという地道が営業活動を行っている。

→ (唐木委員) 地道な活動以外のところからも応募が来るようになると好循環が生まれてくると思うので、続けて行って欲しい。

・高野委員：就職について成果が表れていると感じる。Open Gate Niigata も素晴らしい取り組みであり、ぜひ今後も続けて頂きたいと思う。説明の中で企業への発信が課題という話もあったが、新潟市の I P C 財団において「日々是新」というビジネスイベントも開催しているので、ぜひ活用頂けたらと思う。

・武田委員：「開志らしい学生」ということがとても良いことと思った。カリキュラムや教員に目が行きがちだが、大学の一番の広告塔は学生だと思うので、開志らしい学生が増えていくことはとても良いことだと感じる。

N S G グループの卒業生として、自身が学校を選んだ理由として、先輩が進学していた学校だったことや、パンフレットに先輩たちがどんな活躍をしているかが、一番目が行ったと感じるので、このあたりをブラッシュアップされるとさらに良くなると思う。

臨地実務実習先へ就職をした割合はどのぐらいいるのか。

→ (阿部課長) 今年度に関しては 16.7% だった。

→ (向委員長) 企業内実習Ⅲにおいて 3 年生と話をしていると、臨地先も就職希望として実際に挙がって来ていた。

・田中委員：高校へ訪問して授業をするというお話があったが、出張授業は誰が誰に対してどのような授業をするのか

→ (向委員長) 一番多いのは「探求学修」の時間での実施。まだ高校でも取り入れられて日が浅い科目でもあり、高校教員も苦慮している現状もあるため、依頼を受けることがある。今後、複数の高校と高大連携協定を結んでいくことになるため、その高校を中心に支援できるようにしていきたいと思っている。

→ (田中委員) 特に、A I の技術については最近急に、社会人になってすぐに使えることが求められてきているので、開志専門職大学を卒業した学生は全員できるぐらいのことができるとてもアピールポイントになるかと思う。

→ (向委員長) 現状だと、教員より学生の方がうまく扱えているような状況もある。課題作成等でチャット G P T などを使っているように見えるがうまく工夫をして使っている様子も見られる。一方で、Excel などが扱えない、文章がうまく書けないなどが課題になっている。新しいものは積極的に取り入れつつ取り組んで行きたい。

・向委員長：Open Gate Niigata から入試に接続する仕組みや、Open Gate Niigata から波及した優秀なプレゼンについて創業に向けて動くなど、道半ばのところもあるが、今後つなげようと動いている状況である。定員充足について・キャリアについてなど、これから成果を出せるところもあるので、次年度引続き取り組んで行きたいと思う。

## 6. 資料

- 【資料1】教育課程連携協議会 構成員名簿（1003）
- 【資料2】カリキュラム改訂メモ
- 【資料3】9月\_教育課程連携協議会\_入試広報
- 【資料4】2024年度オープンゲート Niigata（総務会資料）
- 【資料5】ベンチャー学会全国大会概要
- 【資料6】事業創造学部 学生状況（2024）
- 【資料7】新入生スクーリング報告
- 【資料8】2024年度事業創造学部運営報告
- 【資料9】2024年度 事業創造学部 臨地実務実習先一覧
- 【資料10】事業創造学部 2025年卒\_内定先企業

以上